

都内の高校生 農泊体験

喜多方で農家と交流

利用校増加
回復の兆し



地元農家と東京の高校生が交流を深めた農泊の開校式

足立学園高生、苗植え挑戦

東京都足立区の足立学園高の生徒は1、2の両日、課外学習のため喜多方市を訪れ、農家に宿泊する「農泊」を体験した。震災後、都内の利用校は少数にとどまっており、関係者からは歓迎する声が上がった。

農泊は農山漁村で自然や文化、人々との交流を楽しむ「グリーンツーリズム」の一環。同市では野菜の収穫や田植え、稲刈り、昔ながらの遊びなど多彩なプログラムが準備されている。

窓口のNPO法人喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンターによると、市内で農泊などを体験した児童、生徒は2010（平成22）年度に59校、約1万人に上ったが、原発事故の影響で11年度はゼロとなった。昨年度は震災前の5割

ほどで徐々に回復の兆しが
見えているという。

初日は押切川公園体育館で開校式が行われ、同法人の伊藤幸太郎理事長が「粘り強く安全性をアピールしている。一緒に楽しい時間

を過ごしたい」とあいさつした。

参加した1年生約110人は受け入れ先の20軒に分かれて野菜の苗植えなどに挑戦、農家の苦勞ややりがいに理解を深めた。